

# 災害とトラウマ

「こころのケアセンター」編

岩井圭司／被災地のその後——阪神・淡路大震災の33カ月

R・バイヌース／子どもと災害

中野幹三／地下鉄サリン事件

A・マクファーレン／自然災害の長期的転帰

小西聖子／犯罪被害者のトラウマへの対応

J・ハーマン／トラウマ、家族、コミュニティー

加藤寛／「こころのケア」の4年間——残されている問題

中井久夫／災害と日本人

みすず書房

1995年に起きた阪神・淡路大震災と地下鉄サリン事件以来、「こころのケア」や「トラウマ」という言葉は、日本でも周知のものになった。レイプや子どもへの虐待、ドメスティック・バイオレンスなど「犯罪被害者」にかんする記事も、日々の新聞をにぎわしている。しかし、被害者をはじめ、医療・福祉・行政、それに周囲の人たちへの指針は、端緒についたばかりだ。

本書は、1997年10月に神戸で開かれた国際シンポジウムを骨子とする。くトラウマとは何か、トラウマから回復するにはどのようにすればよいか、直接の被害者だけでなく、間接の被害者に対しても、どのように対応すべきか、く国の内外からの第一人者8氏が熱意をこめて具体的に報告した本書は、この国の必須の課題への最も信頼に価するメッセージである。